



【ご挨拶】 コロナで1年延期になった「東京オリンピック2020」が、7月23日～8月8日、17日間にわたって開催されました。日本は58個（金27個、銀14個、銅17個）のメダルを獲得し、アメリカ、中国に次ぐ素晴らしい成績でした。引続いてパラリンピックが8月24日から9月5日まで行われています。残念ながら無観客でしたが、この夏は全国が盛り上がりました。その反面、新型コロナウイルスの感染者は急増し、ついに8月20日から兵庫県も緊急事態宣言の対象になりました。さらに、猛暑から一変して大雨による洪水被害。良いこともあれば悪いこともありましたが、夏の終わりはいつも少し寂しい気分です。

【朝から元気！毎日ラジオ体操】

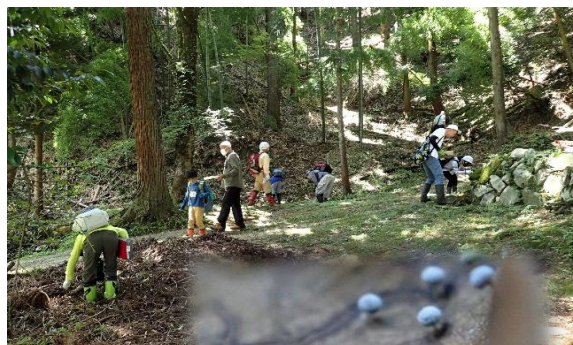
新しい～い朝がきた…夏休みの一日は早朝のラジオ体操から始まります。その起源は、1930年に東京神田の警察官が気の緩む夏に心身を鍛えるためにもってこいだ、ということで始めたのがきっかけだそうです。毎朝6時半（土日は除く）、久斗山・境地区の子どもと保護者10名が、久斗山ふれあいセンターの前で輪になって体操をします。みんな今日も元気です。



少し眠いけど、みんな元気に体操します(8月20日)。

【久斗山は好奇心のタネがいっぱい！「変形菌観察会」「川の生き物観察会」開催】

先月号の公民館だよりにもご案内しましたが、「好奇心のタネをまこう」(ジオsens但馬因幡探求クラブ主催)の行事が、7月31日と8月7日の2回、久斗山を会場として行われました。7月の「変形菌観察会」では大杉神社で変形菌を採集し、ふれあいセンターで顕微鏡で観察して名前を調べたりしました。この日、大杉神社で10種類以上の変形菌が確認されました。8月は久斗川で「川の生き物観察会」でした。清流に住むアカザが十数年ぶりに見つかりました。2回とも、町内外から多くの子どもと大人が参加し、久斗山の自然を満喫しました。



顕微鏡で不思議な生物、変形菌を観察



十数年ぶりにアカザ発見！

【おわび】 8月22日(日)に計画しておりました久斗山自然教室「川遊び&生き物観察&魚取り」は、20日より、兵庫県もコロナの緊急事態宣言の対象となったため、感染予防に配慮して中止としました。地区の公民館行事として開催できず、とても残念です。参加を申込み、楽しみにしていたみなさんに対し、たいへん申し訳なく、ここにおわび申し上げます。

【地区の環境整備「河川愛護&道路愛護」】

夏は草がよく伸びます。近年シカが食べるので、以前ほどではありませんが、シカも食わない雑草が繁茂しています。8日は河川愛護で久斗川の川沿いを、22日は道路愛護で町道の沿道の草を刈りました。村人全員が朝6時より、刈払機などを手に集まり、各隣保が受持ちの場所を2時間ほどで終わりました。



【今年の夏は短く大雨、異常気象か？】

8月9日の未明、中国地方に上陸した台風9号は、その後熱帯低気圧に変わったものの西日本の各地に大雨洪水の甚大な



被害をもたらしました。当地区は幸いにも大きな災害はありませんでしたが、その後は前線が停滞して天気が悪く、お盆14日の墓参りも雨の中でした。梅雨明け後は30℃を越す猛暑日だったのが、一変して秋のような気候になり、今年の夏はわずか3週間で終わった感じです。

【8月は人権推進月間】

「差別をなくし人権文化をすすめる町民運動」の推進月間として、2日には街頭啓発が行われ、啓発のぼりの配布があり、ふれあいセンターの前などに立てられました。22日夜は人権学習会の予定でしたが、コロナの緊急事態宣言で中止になりました。



【初盆のご供養】

今年のお盆は、雨とコロナの影響もあり、お墓参りの人出も少なかったです。14日の夜は、例年どおり地区公民館の体育館に、その年の初盆をご供養する祭壇が奉られ（盆踊りは中止）、地区の人が焼香に訪れました。



○令和3年 9月の行事

- 5日(日) 町立浜坂中学校 運動会
- 11日(土) 「夜の鳴く虫観察会」(18:00~20:00 久斗山地区公民館行事)
- 18日(土) 町立浜坂東小学校 運動会
- 23日(木) 「シワガラの滝トレッキング」(9:00~15:00 上山高原エコミュージアム)



夢ホールリニューアル記念
ふるさとおかえりなさいシリーズ第1弾

岸本悟明

ふるさとコンクリート

- ・日時: 2021年9月25日(土)
開場13:30 開演14:00
- ・会場: 新温泉町文化体育館夢ホール
新温泉町湯990-8
- ・入場料: 大人.....2,000円
高校生以下...1,000円
- チケット発売日 8月2日
(※当日券は300円増し)
- ・チケット販売所
加藤文太郎記念図書館
浜坂公民館・温泉公民館
- 【お問い合わせ】
温泉公民館 Tel:0796-92-1870



キツネノマゴの花

今月の野草

キツネノマゴ

稲が色づき始めた田んぼの畦で、草丈数十センチの茎の先に穂をつけた、ひかえめに二つ三つ、淡紫色をした、ベロを出したような花をつけます。狐の孫と名前がありますが、狐とどのような縁があるのかハッキリしません。夏草に埋もれて目立たず、そのうち他の畦草と一緒に刈られてしまします。

かつてに昔話

谷は緑なりき(第二話)

作、いっこう

谷はとても平和で、まさに理想郷でした。コウは、谷の村に生まれて四十年以上になる、村では珍しい独身男性です。両親は数年前にそろって他界し、兄弟もいないので今では一人住まいの、ちよっと変り者でした。祖先から引き継いだ十分すぎる畑があり、そこで収穫できる野菜の、余剰分を物々交換して生計を立てていました。あくせく働くでもなく、暇ができるといつも山際の小高い丘のてっぺんに寝転がり、頂に雪を載せた急峻な山で細長く切り取られた谷の空を眺めていました。一日ずっと青空の時もありましたが、漂う雲は目まぐるしく変化し、時には雷が切り裂き、大粒の雨を降らし、日中は輝く太陽がゆっくり横切り、夜は無数の星がきらめきました。おいらは人生の半分以上、ずっとこの谷で生きてきた。特に不満も何も無いけど、あの空の向こう、あの高い山を越えた、この谷の外はどうなっているのだからか？

コウは空を眺めながら、ふとこんな想いにとられました。それからというものの、山の急な岸壁を途中まで登ってみたり、川の流れてこむ湖の彼方を見渡してみたりしました。山は中腹まではなんとか登れても、そこから上は天に届くような垂直の岩肌が行く手を拒みました。湖の沖合はいつも濃い霧が漂っていて、いくら目をこらしても対岸が見えることはありませんでした。木の葉や枝が水に浮くことは知っていましたが、筏や船を作ったことには乗って湖にこぎ出す知識はありませんでした。(つづく)